第８回　伊方町誌編さん委員会

【日　時】　令和７年７月24日　10:00～11:30

【場　所】　伊方町役場　６階大会議室

【次　第】　１　開会あいさつ　菊池委員長

　　　　　　 2　議事

1. 新伊方町誌内容確認（第１編、第２編、第３編）について

　　　　　　 3　その他

【構成員】　委員長　菊池　隼人

　　　　　副委員長　谷村　栄樹

　　　　　委員

　　　　　　中川未来（愛媛大学准教授）

井村桂子（元伊方町役場職員・伊方地域）

井上利彦（元伊方町役場職員・瀬戸地域）

宇藤　司（元伊方町役場職員・三崎地域）

高嶋賢二（佐田岬半島ミュージアム館長）※欠席

稲田美樹（図書館司書）

　 　**町誌編さん業務受託者**

 　　　岡田印刷株式会社

**事務局**　　篠川俊一（総合政策課課長補佐）

畑中孝仁（総合政策課　係長）

中元真理（総合政策課　主事）

議事内容

１　開会あいさつ

委員長開会あいさつ

２　議事（1）新伊方町誌内容確認（第１編、第２編、第３編）について

**「（1）新伊方町誌内容確認（第１編、第２編、第３編）について」岡田印刷より説明**

（岡田印刷）

現状気になっております納期についてですが、10月末という想定でさせていただいておりますけれど、現状の流れにつきまして、非常に厳しい状況であります。というのは、1編の前の序編の原稿が入っていない状況ですので、これを今から早急に入れていただいたとしても、校正のやり取りは厳しいかなというのと、「未来へのメッセージ」につきまして、ラフデザインはできておるんですけれども、こちらについても対象をどうするのかというご依頼をまだしておりませんので、そのあたりを含めますとちょっと厳しいかなと思いますので、そのあたりを今後どうされていかれるか。もしも、納期を優先するのだったら序編とか、未来へのメッセージをなくすとかになると思います。業者としましては、序編のほうは、伊方らしさを出すためにも絶対外せないんじゃないかと考えておりますので、そのあたりも含めまして、ご検討をこの流れでさせていだけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

（委員長）

ただ今のご説明に対して、ご質問、ご意見等がある方は挙手にてお願いいたします。

（委員）

　10月末が町としての納期で、これはもう動かすことはできないのでしょうか。

（事務局）

　合併20周年式典を11月頭に開催予定としておりまして、当初はそこに間に合う日程に、ということでこのスケジュールを予定していたところであります。

（委員）

　およそ3か月ですね。厳しいですか。

（岡田印刷）

　序編の入稿次第です。

（事務局）

　先日、私のほうからも高嶋に連絡したのですが、いつまでに、という回答はいただけなかったという現状です。

（岡田印刷）

10月納期として、今月中には原稿をいただかないと厳しいです。

（事務局）

　わかりました。早急に再度確認をして、今月中に基本的には出していただくような形で再度調整させていただけたらと思います。

（委員）

　今の話を聞きますと、原稿が今月中にできれば、当初通り10月に出来上がるという感じでいいですか？

（岡田印刷）

　はい。それは大丈夫です。校正の具合によりますけれど、今は順次校正のほうをお出ししている状況です。あとは序編と未来へのメッセージをどうするか、という流れでございますので、序編の校正がスムーズにいけば、10月末に間に合うかなと思います。

（委員）

合併記念式典が11月にあるという話ですけど、それに絶対間に合わなければならないという考え方ですか。そういった差し迫った中でやっていくと、極端に言えば、当初想定したものよりかは質の低いものが出来上がる可能性があるかと思いますので、もし、式典に関係なしにできるのであれば、記念誌なのでやっていただいたほうがいいのかなという感じは見えます。

（副委員長）

　当初、確かに記念式典に間に合うことを目安に設定していましたが、式典で町誌を配布するということではありませんので、そこはどうしてもということであれば、工期延長も考えられます。

（委員）

　そうでしたら、どこそこに配るというものでもないので、町誌はしっかり作ったほうがいいんではないかと私も思いますし、11月に記念式典はするんですけれども、本当に絶対にというわけではないと。

（副委員長）

　それは、今の納期でも間に合うように、努力はしていただくという体制で行きたいと思います。

（委員）

　未来へのメッセージ、これはまだ依頼をかけてないというのは。

（岡田印刷）

　対象を中学校3年生にするのか、小学校6年生にするのかというところを委員会の議題にかけたいというところで、まだ依頼を出せておりません。

（委員）

　今、夏休み期間ですから、例えばどの学年にするかを決めて、集めるのは学校のほうで。そう考えると、11月頭になりようですかね。これは、序編の頭でしたか。

（岡田印刷）

　年表の前です。書いていただいた方は必ず町誌を見てもらうということで、年齢層を広く、子供たちにも見てもらえるという形のご提案ですので、この点も審議させていただいたらと思います。

（委員長）

　そうですね。年齢層についてですが、どうですか。

（委員）

　このメッセージは何人くらいを想定しているのですか。

（岡田印刷）

　中学校3年生、もしくは小学校6年生を想定していたます。

（委員）

　6年生か3年生、どちらかで。両方はどうですか。

（岡田印刷）

　両方は想定してないです。想定では、ページ数は20ページとっていますので、人数的にはそこそこ載せられるかなと思います。

（委員）

　3年生と6年生、大体何人いるんですか。それによって載せる人数が変わりますかね。

（委員）

載せるのは全員ですよね。全員か、数人選んで載せるのか。今の話でしたら全員ですね。

（委員）

　全員載せんと、選抜とかになったら選ぶのが難しい。

（委員）

　児童は、全部で300人くらい。伊方小学校の全校児童数が110人くらいですね。

（委員）

　それだけのページ数ありますと、6年生だけだと余ってしまう。

（岡田印刷）

　先ほどのページ数は最大ですので、減らすことも可能です。他の編につきましても、ページ数は増減しています。

（委員）

　例えば、小学校の高学年、6年生と中学校の高学年3年生両方はどうですか。やっぱりできるだけ多いほうがいいと思います。たくさんのメッセージがあったほうがいいです。

（委員）

　学校に依頼をかけて、早いほうがいいのはわかるんですけど、いつごろまでにあったほうがいいですか。

（岡田印刷）

　10月末の納期ですと、9月いっぱいが締切になるペースです。

（委員）

　そうですね。名前を出すからには、校正もしっかりやらないとですしね。

（岡田印刷）

　文字数的には50文字から60文字程度を目安にしております。

（委員）

　学校のほうは、8月に登校日とかはないですか。夏休み中にお願いして出してもらうのが一番いいと思いますが。

（委員）

　先生方や子ども用にこういうものを作るんですという内容、先生方的にはひな形があったらやりやすいかなと思います。

（岡田印刷）

　対象が決まりましたら、依頼文書とひな形はこちらから出したいと思います。

（委員）

　小学校6年生と中学校3年生でいいと思います。未来へのメッセージですが、2月末くらいでいいんでしょうか。

（副委員長）

　極端に伸ばしたくはないというのはあります。せめて年内とかですね。教育委員会のほうにもお願いして、学校のほうにも依頼したいところです。

（委員長）

　よろしいでしょうか。他に何かご質問・ご意見等はございますか。

（稲田委員）

　1編の51ページですけれど、この写真はカラーにはならないんですか。

（岡田印刷）

　そうですね。カラーがないか依頼してみます。

（委員）

　個人的にですが、編の中の章の色が同じ色なので、調べるときにわかりにくいかなと思います。

（岡田印刷）

　そのことにつきましては、編ごとに色を変えてます。

（委員）

　章ごとに色を変えるのもありかなと思います。

（岡田印刷）

　わかりました。扉の写真なんですけれど、これは以前、この写真でよろしいかどうかという話が出ていたと思います。

（中川委員）

　少しインパクトに欠けますね。町がイメージとして使っている写真はあるんですかね。伊方を町外に示すときに。

（副委員長）

　半島の航空写真を使いますね。いろいろ写真をもってきて、選んでもらったらいいと思います。

（岡田印刷）

　写真は最終段階まで変更はききます。

（委員）

　編纂委員会は何回まで開催予定でしょうか。

（事務局）

　今後の進み具合にもよりますが、今回持ち帰っていただく編を次回の編纂委員会にかける議題とさせていただいて、残りの分をあと一回と、最終分を想定しています。

（委員）

　扉の写真は最後のほうでいいんですよね。

（事務局）

　前回の編纂委員会の時には、この写真につきましては、全部の編が出そろってから全体のイメージができてお話ししましょうか、というお話にさせていただいていたかとは思います。

（委員）

　前回の時は色については何かありましたかね。

（事務局）

　前回、色についての議題はなかったかと思います。

（委員）

　町のイメージにかかわりますよね。表紙についてはどうでしたか。

（岡田印刷）

　布張りの箔押しにするか、カラー印刷をして貼り箱形式にするか、まだ決まってなかったです。

（委員）

　近隣の市町さんは派手なのが多い気がします。内子町とかおしゃれで、あんまり「町誌」っていう外面からはちょっと外れるような。大洲市も市誌編纂を始められたそうですけれども、内子に負けないようにと、派手にするみたいですね。次回の編纂委員会はいつになる予定ですか。

（事務局）

　できれば、今日持ち帰っていただいた資料を確認していただいて、それの修正案ができて、校正案が出てきたら、というところをイメージしているので、1か月、1か月半か、それくらいの間にできたらなと思っています。

（委員）

　延期するにしても、最終的な納期は今年度末か。

（副委員長）

　最終は年度内ですが、年内には仕上げたい。

（岡田印刷）

　第7編はあと写真等を待っている状況です。また、文章のほうは、先生に依頼していたのですが、先生のほうから別の方に依頼されていて、その写真を待っている状況です。

　それから、事務局のほうから旧伊方の方しか掲載がないとご指摘がありました、第8編の「人物」につきまして、現在活躍されている瀬戸町、三崎町の方について情報を提供いただけたらと思います。

（委員）

　この、「現在活躍されている」というのはどういう基準ですかね。

（岡田印刷）

　基準は設けておりません。こちらで把握している方を掲載しております。

（委員）

　思い浮かばんなあ。この人ら、伊方の人ら、どういう人かわかりません。いわば、どういうレベルなのか、というのが分からないので、難しい。

（委員）

　名誉町民や、町民栄誉賞だったり、説明がつくように選ばないと。何らかの基準があったら挙げやすいんですけど。その後には、未来へのメッセージと年表が続くと。

（委員）

　その流れでしたらなくてもいいような気もしますね。

（委員）

　一つの考え方ですが、町が、誰に向けてどのようなメッセージを伝えたいのか、ということにかかわってくると思います。これまでの伊方の変遷、また、未来へのメッセージがあるように、これからどうなるかわかんないんだけども、子どもたちの声を明らかにする、というのも一つの姿勢ですから。

（委員）

　なかなか基準を作るの、難しいことないですかね。

（事務局）

　事務局としては、線引きをするのが難しいかな、とは思います。

（岡田印刷）

　その項目をなくすとしたら、各編のところに囲み記事で掲載することもできますので、検討をお願いいたします。

　また、語り部集について、まとめさせていただいているんですが、表紙は2案作っています。話に出てきた写真を掲載したいなと思っていたんですが、これもなかなか非常に難しいというところですので、写真にあったようなイラストを要所に挿入して、製作しています。これも次の委員会までには完成して、内容を見ていただきたいです。

（委員）

　すみません。目次のところですけど、「伊方　湊浦地区」というのが気になります。「湊浦地区」って、ピンとこないといいますか、村の名前ですよね。三崎が「三崎　三崎地区」なので、「伊方　伊方地区」でいいと思います。

（委員）

　「四ツ浜地区」も、ツがひらがなになっているので、カタカナに直して下さい。

（委員）

　例えば75ページで、Bさんが「マホラン」と言っているんですが、マホランって何でしょうか。

（委員）

昔よく、紐とかを作る植物であったんです。

（委員）

　わからない言葉が結構あったりするんじゃないかと思うので、注釈といいますか、横に説明が欲しいですね。

（委員）

　68ページですが、昭和23年は間違えだと思います。多分63年ぐらいだと思います。23年の戦前いうことはないと思います。

（委員）

　やっぱり、座談会の内容は全体的な確認が必要ですし、佐田岬半島ミュージアムや座談会参加者の方々に見てもらうほうがいいですね。

（委員）

　先ほど、事務局にはお伝えしましたが、鳥津か島津になっているのと、桜谷さんの漢字が違うのと、大成の文字が一つだけ左詰めになっているので、訂正をお願いします。

（委員）

　14ページの鳥津の方と、1ページの川永田の方が名前一緒ですね。

（事務局）

　訂正します。

（委員）

　すみません。語り部集は、この前に目次がついて、という形ですね。ところどころ、各地区で前振りがあるところはあるんですが、ないところは実際に前振りがなかったんですかね。

目次の後にあったほうが分かりやすいかなと思います。

　写真についてなんですが、佐田岬半島ミュージアムの開館に展覧会をやってらした新田さんの写真とか使えたらいいかなと思います。版権とか、気になるところはありますが。

（委員）

　版権はありますけど、確か八幡浜の図書館の方に掲載していいか頼んでいました。

（宇藤委員）

　当初の予定では、500部の計画やったと思うんですけど、この500部っていうのを増刷するっていうのはどうですか。いろんな人に町誌を手に取ってもらいたい、という感じで、町誌を通じて伊方町のことを知ってもらいたい、とやっていたら、500部じゃ足りないと思うんですが、増刷するとなると予算も変わってきますし、町の方針としてはどうなのか伺いたい。

（副委員長）

　たちまち増刷するということは考えていませんが、必要に応じて、ということになると思います。今回の契約で500部を超えるということはないですけれど、今後、町誌が買われて、なくなっていってしまうということになれば、増刷するということも考えられます。

　また、電子ブックも別途作成しますので、そちらでも対応できます。

（委員）

　町誌ができた後、どうやって活用していくのかということも当然今のうちから考えていく必要があると思います。

（委員長）

ありがとうございます。私は今回、編纂委員会の参加が初めてですけれど、確かに今後の町政に活用していけたらとは思います。この500部の設定も確認して、また次回の編纂委員会のほうで回答できたらと思います。

他にご意見はございますか。それではないようでございますので以上をもちまして、私の方の任は降ろさせていただきます。事務局の方に、お返しをいたします。

（事務局）

ありがとうございました。

次回の予定としましては、また各編の校正ができましたら、確認を皆さんの方にしていただいて、細かい文章等の誤り等については、事務局の方に適宜ご連絡いただきましたら、岡田印刷さんと協議と修正を行うことを今後の流れとさせていただきたいと思います。

次回からも皆様のお知恵をお借りしながら、新町誌の編さんを行って参りたいと思いますので、またご協力よろしくお願いいたします。

次回の開催についてはまた、ご連絡をさせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。